

平成20年度事業報告について
(平成20年4月1日から平成21年3月31日)

I 概要

尾瀬の優れた自然環境の保護と適正な利用を図るため、利用者等を対象に、利用マナーの啓発、自然への理解を深める解説活動等を実施するとともに、荒廃した湿原の植生復元、尾瀬山の鼻、尾瀬沼の両ビジターセンターやその他施設の管理・運営、ツキノワグマ対策や尾瀬国立公園利用適正化のための調査事業等を受託、実施した。

また、尾瀬に関係する機関・団体等が一堂に会して意見交換を行う「尾瀬サミット2008」を主催し、シカ対策やガイドの活用など、尾瀬国立公園の課題について意見交換を行ったほか、ガイド認定制度を推進する「尾瀬認定ガイド協議会」の設立、運営を支援するとともに、ガイド認定のための座学講習を実施した。

さらに、「尾瀬ビジョン」の進行管理等を行うための「尾瀬国立公園協議会」の事務局として各関係機関の取組方針（案）についての意見の取りまとめを行った。

II 実施事業

1 利用者啓発事業

(1) 入山者啓発事業

① 入山口における案内・啓発

尾瀬の環境美化や利用者のマナー向上を図るため、入山口（鳩待峠口・沼山峠口・大清水口、滝沢口、馬坂峠口、猿倉口）において、尾瀬ボランティアの協力を得て入山者への案内・啓発を実施するとともに、関係機関・団体と連携してごみ持ち帰り運動を実施した。

② 尾瀬ボランティアの活動支援

尾瀬ボランティア（平成21年4月1日現在登録者数：363名）による入山口啓発、美化清掃活動等をコーディネートした。

また、インタープリテーション（自然解説）活動の充実とお話しボランティアなどの資質の向上を図るため、現地研修を含めたボランティア講座を開催した。

ア 入山口啓発活動

利用マナーや現地状況の説明、靴底の種子落とし指導、軽装者への注意喚起等

	活 動 期 間			延べ合計 (設定日数)
	5/24 ~ 6/22	7/5 ~ 7/20	9/6 ~ 10/13	
鳩待峠	43人 (8日)	26人 (6日)	20人 (11日)	89人 (25日)
沼山峠	11人 (7日)	10人 (6日)	6人 (7日)	27人 (20日)
大清水	13人 (2日)	6人 (2日)	5人 (1日)	24人 (5日)
滝 沢	—	2人 (5日)	2人 (3日)	4人 (8日)
馬 坂	1人 (3日)	—	3人 (5日)	4人 (8日)
猿 倉	0人 (2日)	—	5人 (3日)	5人 (5日)
延べ合計 (設定日数)	68人 (22日)	44人 (19日)	41人 (30日)	153人 (71日)

イ 至仏山東面登山道周辺植生保護

・踏み込み防止柵設置 6月21日 柵撤去 10月26日

ウ お話しボランティア（スポット解説）活動

	活 動 期 間			延べ合計 (設定日数)
	5/30 ~ 6/20	7/7 ~ 8/29	9/12 ~ 10/10	
尾瀬ヶ原地区	0人 (5日)	5人 (7日)	3人 (7日)	8人 (19日)
尾瀬沼地区	11人 (7日)	15人 (10日)	9人 (6日)	35人 (23日)
延べ合計 (設定日数)	11人 (12日)	20人 (17日)	12人 (13日)	43人 (42日)

エ 尾瀬巡回清掃

6月15日、7月27日、8月24日

オ ありがとう尾瀬清掃活動

9月15日、10月13日

カ ボランティア研修

6月28日～6月29日（ボランティア講座）

キ ビジターセンター支援ボランティア

山の鼻ビジターセンターの運営を協働（4名で計11回実施）

ク その他

尾瀬等での自主ボランティア活動、事務局での事務ボランティア、尾瀬関連ツアーのパンフレット収集、身近な地域でのボランティア活動等

③ ガイド利用の普及促進

ア 尾瀬認定ガイド協議会の設立及び運営の支援

尾瀬におけるガイド養成及び資質向上のための認定制度を運営する機関として、「尾瀬認定ガイド協議会」の設立及び運営について支援を行った。

また、協議会の事務局業務を受託するとともに、自然ガイド認定のための座学講習を実施した。

イ 尾瀬自然解説ガイド事業

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼において、申し込みに応じ尾瀬自然解説ガイドによる自然解説ガイド事業（有料）を実施した。

・ガイド登録者数 21名

・活動実績 18回（452人をガイド）

(2) 自然解説事業

① 自然解説活動の実施

適正利用を啓発するとともに、利用者が尾瀬の自然の大切さについて認識を深めることを目的として、尾瀬山の鼻、尾瀬沼両ビジターセンター及び見晴休憩所において、自然観察会やスライドショー、団体レクチャーなどを実施した。

ア 尾瀬山の鼻ビジターセンターでの活動実績

・自然観察会	実施回数	41回	参加者	391人
・スライドショー	実施回数	47回	参加者	1,339人
・団体レクチャー	実施回数	23回	参加者	812人
・環境学習（※）	実施回数	651回	参加者	862人

※新規に実施したビジターセンター周辺での解説者（ガイド）付きの自然観察や公

衆トイレ施設を含む環境学習ミニツアー。

イ 尾瀬沼ビジターセンターでの活動実績

・自然観察会	実施回数	94回	参加者	507人
・スライドショー	実施回数	50回	参加者	1,958人
・マルチスライド上映			参加者	10,467人
・団体レクチャー	実施回数	24回	参加者	959人

ウ 見晴休憩所での活動実績

・自然観察会	実施回数	11回	参加者	50人
・スライドショー	実施回数	7回	参加者	238人
・団体レクチャー	実施回数	1回	参加者	28人

② 環境教育プログラム・環境学習・展示リニューアル推進業務

群馬県の委託により、ビジターセンターにおける自然解説活動を充実させるために、環境教育プログラムの整備、解説リーフレット、解説展示の作成を行った。

また、尾瀬が「環境学習の場」として活用され定着させていく方策を検討するために、首都圏の学校に対してアンケート調査を実施した。

その他、新規拡張地域を含めた尾瀬国立公園全体の情報提供を充実させるため、立体模型（ジオラマ）、壁掛式立体模型（レリーフマップ）等を製作した。

(3) 指導者養成事業

① 新規職員等導入研修

職員の資質向上と円滑な業務運営を図るため、新規職員等を対象に、国立公園制度や尾瀬の概況等の研修を実施した。

開催日：5月7日～8日 場所：前橋市

② 救急法研修

尾瀬での傷病者対応に必要な救急の知識・技術を習得するため、ビジターセンター職員等がMFA（メディック・ファースト・エイト[®]・応急救護研修）の基礎コースを受講した。

開催日 場所

5月16日～17日 尾瀬沼ビジターセンター

5月19日～20日 尾瀬山の鼻ビジターセンター

(4) 啓発PR事業

① 財団機関誌「はるかな尾瀬」の発行 年4回発行

② 第10回「尾瀬フォーラム」の開催

尾瀬の自然や財団活動に対する一般の人々の理解を深めるために開催した。

- ・開催日 平成20年12月19日
- ・場所 高崎シティギャラリー・コアホール
- ・内容 講演「尾瀬の花のふしぎと魅力を探る」
講師 フラワーエコロジスト 田中 肇 氏

・参加人員 176名

③ 第13回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト及び写真展の開催

福島、前橋、新潟の各NHK放送局と共催し、尾瀬の「自然」、「動植物」、「人物」、「保護」をテーマとしたフォトコンテストを実施するとともに、入選作品や財団パネルの展示、スライドレクチャーを内容とした写真展を各地で開催し、尾瀬の自然保護について普及啓発した。

・フォトコンテスト 応募作品数 844点 入選数 51点

- ・写真展 12月19日～12月24日 高崎シティギャラリー（群馬県）
 1月15日～ 1月21日 群馬県庁県民ホール（群馬県）
 2月27日～ 3月12日 柏崎市立図書館（新潟県）
 3月19日～ 3月31日 NHK福島放送局アートギャラリー（福島県）

④ 啓発リーフレット等の作成・配布

利用マナーの向上、尾瀬の案内、自然解説等に資するため、セルフガイドなどを配布したほか、利用分散化の推進等のため尾瀬地域交通対策パンフレット（48,600部）を作成して、関係機関や一般入山者に配布した。

⑤ 各種イベントにおける尾瀬保護と適正利用の啓発

尾瀬の保護と適正利用について一般の人々の理解を深めるため、関係機関等が開催する各種イベント等の会場内に「尾瀬コーナー」を設け、利用マナーの向上と平日利用、入山口分散化等の呼びかけを行った。

イベント	開催日	場所
・自然公園ふれあい全国大会	8月30～31日	檜枝岐村
・第10回ぐんま環境・森林フェスティバル	11月9日	高崎市

⑥ ホームページの管理運営

財団の事業、財務状況等の情報をホームページに掲載し、財団の活動について周知を図るとともに、財団の活動によって収集されたタイムリーな尾瀬の自然情報や尾瀬の貴重な自然の成り立ちの紹介、入山マナーの啓発などにより尾瀬の適正利用の推進を図った。

2 環境保全事業

(1) 植生復元事業

環境省、福島県及び群馬県からの委託により、入山者の踏み込み等により植生が荒廃又は裸地化した湿原の植生を復元・保護する作業を実施した。

- ・尾瀬沼地区及び尾瀬ヶ原地区の保護柵設置・経過観察等
- ・至仏山東面登山道沿いの踏み込み防止柵設置等
- ・熊沢田代植生復元作業
- ・沼尻植生復元作業
- ・小淵沢田代植生復元作業

(2) 至仏山保全対策

① 至仏山保全対策会議

登山道周辺の植生の荒廃が深刻な状況となっている至仏山について、関係機関と有識者による会議を開催して、植生保護と利用の適正化に向けた対策の検討を行った。

活動等	開催日	場所
・残雪期現地調査	4月15日	至仏山
・第3回会議	4月18日	群馬県庁会議室
・開山前現地調査	6月11日	至仏山
・第4回会議	6月19日	群馬県庁会議室
・第5回会議	1月20日	群馬県庁会議室

② 至仏山気象観測業務

至仏山保全対策に資するため、至仏山の気象に関する基礎データを収集した。

(3) 山ノ鼻地区気象観測

山ノ鼻地区に気象観測装置を設置し、データを収集、整理した。

3 施設管理事業

(1) 施設維持管理事業

① ビジターセンターの管理運営等

ア 環境省尾瀬沼ビジターセンターの管理運営

開館期間 5月 1日～10月31日 184日間

イ 環境省見晴休憩所の管理運営

開館期間 5月 1日～10月19日 172日間

ウ 群馬県尾瀬山の鼻ビジターセンター管理運営

開館期間 5月11日～10月28日 171日間

② 公衆トイレの維持管理

ア 尾瀬沼地区公衆便所（環境省設置）清掃等

イ 群馬県尾瀬地区山の鼻・竜宮公衆トイレ（群馬県設置）維持管理・清掃等

(2) 利用者対策事業

尾瀬沼、尾瀬山の鼻の両ビジターセンター及び見晴休憩所内に危険箇所などの掲示を行った。

4 調査研究事業

(1) 国立公園利用適正化推進事業

環境省からの委託により、尾瀬の貴重で繊細な自然環境を将来にわたり保全していくために、以下の事業を行った。

① 適正利用促進事業

ア 普及啓発

メール・FAXによる現地情報（自然・歩道状況用）の配信を、尾瀬山小屋・観光協会・登山用品店等に対して実施したほか、情報システム「すいすい尾瀬なび」や「尾瀬生物多様性情報システム」、その他ウェブサイトを通じて積極的に情報提供を行った。

イ 利用集中に伴う影響調査

現状における利用集中の実態を客観的に把握するため、混雑状況や利用者の意識調査を実施した。

② 拡張地域調査事業

尾瀬国立公園の新規拡張地域である会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山の利用の現況及びその課題について調査を行い、適正な利用ルール、施設の整備管理、情報提供のあり方やその手法等について検討・提案を行った。

③ 環境保全事業

ア 至仏山における携帯トイレ導入の検討

利用者に試験的に携帯トイレを配布し、導入に関しての課題について意識調査を行った。

イ 至仏山東面登山道の「上り専用」ルール化対策の検討

利用者への協力を求めるため、チラシやホームページ等で情報提供を行い、適正利

用のための普及啓発を行った。

④ 野生生物対策事業

ア ツキノワグマの危険回避対策

「尾瀬国立公園ツキノワグマ対策会議」を2回開催し（10月5日、3月11日）、「尾瀬国立公園ツキノワグマ保護管理対策マニュアル」を決定した。

遭遇事故の再発防止や予防のため、研究員等ツキノワグマの専門家がヨシッ堀田代（6月上・中旬、18日間）や山ノ鼻（8月中旬、6日間）に常駐し、巡回や追い払いを行った。

また、利用者向けのクマ注意リーフレットの継続配布や、クマ目撃情報を収集分析し、ホームページやビジターセンターで掲示するなどの啓蒙普及を行った。

イ ツキノワグマ生息状況調査の実施

学習放獣したツキノワグマのテレメトリー調査（取り付けた発信器による位置測定調査）を継続して行うとともに尾瀬地域での生息状況を把握するために、生息密度調査、食性調査、痕跡調査、食物利用量調査を実施した。

また、クマ目撃情報の収集分析結果について、日本哺乳類学会でポスター発表を行った。

⑤ 尾瀬ガイドンスの実施

利用者のマナー向上や利用の分散化を図るため、環境省等関係機関・団体と連携して、旅行会社や出版社等を対象としたガイドンスを開催し、尾瀬の現状と適切な利用方法を説明するとともに、協力を呼びかけた。

開催地	開催日	会場	参加者数等
東京都	12月12日	(社)日本旅行業協会 (全日通霞が関ビル)	29社52名参加

(2) 「尾瀬国立公園協議会」の運営

環境省からの委託により、「尾瀬ビジョン」の進行管理を進めるため、当財団に事務局を置く「尾瀬国立公園協議会」が中心となり議論を進めている「生態系の状況の的確な把握」「適正利用の推進」「企業・団体や国民一般からのサポート体制」の取組方針(案)について意見の取りまとめを行った。

・第3回会議 3月26日 環境省関東地方環境事務所（埼玉県）

(3) 尾瀬国立公園編入地域調査事業

福島県からの委託により、自然環境の着実な保全に資するため、有識者から成る「福島県尾瀬保護指導委員会」を活用した科学的知見に基づく現地調査を実施した。

5 顕彰事業

「湿原」に関する学問的・学際的研究の進展を図るとともに、環境保護に関する関心を高めることを目的とし、第12回尾瀬賞の募集と選考を行った。

① 尾瀬賞選考委員会

12月21日 第12回尾瀬賞一次審査結果報告、二次審査の担当選考者決定
2月11日 授賞推薦者決定、選外者への結果通知について

② 尾瀬賞運営委員会

11月16日 選考委員の欠員補充、奨励賞、選外者への結果通知について
3月8日 授賞推薦者決定、奨励賞の設置について、
選外者への結果通知について、第13回尾瀬賞の募集について

③ 受賞者

竹原 明秀 教授 岩手大学人文社会科学部環境科学課程

【研究内容】東北地方の湿原に発達する植物群落の構造とその保全に関する研究

6 友の会事業

各種イベントや財団ホームページを通じて尾瀬の応援団としての友の会会員募集を行った。また、「ユース会員」「家族会員」を創設して入会の促進を図ったほか、会員に対しては、メールマガジンや、機関誌「はるかな尾瀬」の送付などで尾瀬に関する情報の提供を行った。

・平成14年度	賛助会員17社	個人会員1,475人
・平成15年度	賛助会員20社	個人会員1,617人
・平成16年度	賛助会員19社	個人会員1,615人
・平成17年度	賛助会員28社	個人会員1,646人
・平成18年度	賛助会員38社	個人会員1,453人
・平成19年度	賛助会員27社	個人会員1,505人
・平成20年度	賛助会員25社	個人会員1,486人
		(うちユース会員 1人)
		(うち家族会員 46人)

7 尾瀬国立公園記念事業

尾瀬国立公園記念事業実行委員会の構成員及び事務局として、以下の事業を行った。

(1) 尾瀬国立公園記念国際シンポジウム

海外パネリスト4名及び尾瀬関係機関職員等による尾瀬の視察小旅行と歓迎レセプション及びシンポジウムの開催

日 程：平成20年7月18日（金）、19日（土）、7月20日（日）

会 場：魚沼市 小出郷文化会館 ゆきんこホール

シンポジウム参加者数：約200人

【テーマ】「みんなで支える新たな国立公園－『尾瀬国立公園』のめざすもの」～地域との協調・協働による自然公園管理モデルの提案～

【ディスカッションの概要】

入園料の是非、シカ対策、環境教育の充実、高品質なブランドイメージの形成などの問題について活発な意見交換を行い、地域との連携が欠かせないことが改めて確認されたほか、海外パネリストの共通意見として、「観光よりも自然保護に重きを置いている点が素晴らしい」と高く評価する一方、国際的に認知されていないため英語での情報発信、海外の国立公園との姉妹関係締結などの取り組みが提案された。

(2) 尾瀬のお花発見チェックマップ

尾瀬の花を通して尾瀬の豊かな自然を体験し、自然への興味・理解を深めるとともに、エコツアー、ガイド利用の促進、持続的な地域振興に寄与することを目的に、尾瀬国立公園に咲く代表的なお花を、様々な場所、季節から40種類選び、マップを作成し（10,000部）配付。このマップを利用して、実際に咲いている花をチェックして応募してきた参加者に対し、記念品等を贈呈した。

8 財団の運営

財団の適正かつ円滑な運営を図るため、理事会及び評議員会のほか、尾瀬サミット、企画運営委員会等を開催し、尾瀬及び財団に関する諸課題について意見交換等を行った。

(1) 理事会、評議員会の開催

① 理事会

ア 第28回理事会

- ・日 時 6月13日 午後1時～
- ・会 場 九段会館（東京都）
- ・議 事（議案）
 - 1 平成19年度事業報告について
 - 2 平成19年度決算について
 - 3 基本財産への繰り入れ及び管理について
 - 4 常務理事の選任について
 - 5 評議員の辞任に伴う後任評議員の選任について
 - 6 尾瀬賞運営委員会委員の辞任に伴う後任委員の決定について

イ 第29回理事会

- ・日 時 8月31日 午前10時～
- ・会 場 尾瀬御池ロッジ（檜枝岐村）
- ・議 事（議案）
 - 1 副理事長の選任について
 - 2 評議員の辞任に伴う後任評議員の選任について

ウ 第30回理事会

- ・日 時 3月27日 午後2時30分～
- ・会 場 全国町村会館（東京都）
- ・議 事（議案）
 - 1 平成20年度収支予算の変更について
 - 2 平成21年度事業計画について
 - 3 平成21年度収支予算について
 - 4 評議員の辞任に伴う後任評議員の選任について
 - 5 次期理事長、副理事長及び常務理事の選任について
 - 6 （財）尾瀬保護財団公印規程の一部改正について
 - 7 友の会規程の一部改正について

② 評議員会

ア 第28回評議員会

- ・日 時 6月13日 午前10時30分～
- ・会 場 九段会館（東京都）
- ・議 事（議案）
 - 1 平成19年度事業報告について
 - 2 平成19年度決算について
 - 3 基本財産への繰り入れ及び管理について
 - 4 理事の辞任に伴う後任理事の選任について

イ 第29回評議員会

- ・日 時 8月31日 午前9時30分～
- ・会 場 尾瀬御池ロッジ（檜枝岐村）

- ・議 事（議案）
 - 1 理事の辞任に伴う後任理事の選任について
- ウ 第30回評議員会
 - ・日 時 3月27日 午後1時～
 - ・会 場 全国町村会館（東京都）
 - ・議 事（議案）
 - 1 平成20年度収支予算の変更について
 - 2 平成21年度事業計画について
 - 3 平成21年度収支予算について
 - 4 理事の辞任に伴う後任理事の選任について
 - 5 役員の任期満了に伴う改選について
 - 6 （財）尾瀬保護財団公印規程の一部改正について
 - 7 友の会規程の一部改正について

(2) 尾瀬サミット2008の開催

- ・日 時 8月30日、31日
- ・会 場 尾瀬御池ロッジ（檜枝岐村）
- ・参加者 斉藤鉄夫環境大臣ほか約135人
- ・テーマ 「尾瀬国立公園のこれからについて」
シカ対策やガイドの活用などを中心に活発な意見交換が行われた。

(3) 企画運営委員会の開催

- ・日 時 1月28日 午後1時30分～
- ・会 場 With You さいたま（埼玉県）
- ・議 事
 - 1 21年度新規事業について
 - 2 財団事業実施積立資産の取崩しについて
 - 3 規程の一部改正について
 - 4 公益財団法人への移行について

(4) 尾瀬国立公園関係者連絡会議の開催

尾瀬関係者が情報を共有し、緊密な連携の下で後援事業等の円滑な推進を図るため、下記の会議を開催した（構成員：環境省、3県1市1町2村、東京電力、尾瀬林業、山小屋組合）。

① 平成20年度第1回会議

- ・日 時 6月3日 午後1時～
- ・会 場 With You さいたま（埼玉県）
- ・議 事
 - 1 各機関の平成20年度尾瀬関連の事業計画について
 - 2 各関係機関が抱える当面の政策課題・懸案事項等について
 - 3 その他

② 平成20年度第2回会議

- ・日 時 1月28日 午前10時30分～
- ・会 場 With You さいたま（埼玉県）
- ・議 事

- 1 各関係機関の尾瀬関連の平成20年度事業実績について
- 2 各関係機関の平成21年度予算措置について
- 3 各関係機関が抱える当面の政策課題・懸案事項等について
- 4 各関係機関のエコツーリズム推進に向けた取組の状況、課題、懸案事項等について
- 5 その他

(5) 寄付金の募集

財団事業の充実と財務基盤の強化を図るとともに尾瀬に対する幅広い支援を求めるため、HP等を通じて寄付を呼びかけた。

8 物品の販売（特別会計）

財団事業の財源確保と自然環境保全の重要性をPRするため、尾瀬山の鼻及び尾瀬沼両ビジターセンターや各種イベントに参加した際に、尾瀬に関する書籍、地図及び絵はがき等の販売を行ったほか、「わたしの尾瀬」フォトコンテスト入選作品を活用した卓上カレンダーなどの販売を行った。